

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170201412), 法人名 (はまなす介護センター株式会社), 事業所名 (はまなす介護センター光星), 所在地 (札幌市東区北13条東13丁目2-3), 自己評価作成日 (令和4年1月12日), 評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、「幸せになる」と言う理念のもと、入居者様、職員が共に幸せな時間を過ごせるよう、生活のお手伝いをさせて頂いています。建物の立地も住宅地の中にあり、地下鉄駅も近くお車をお持ちでない方も来所しやすいと思います。今年も昨年同様コロナの影響で、大きなイベントを中止し、とても残念ですが幸い入居者様職員共にコロナに感染する事なく、皆様お元気に過ごされている事が、とても喜ばしいことだと思っております。換気、消毒を今後も徹底しコロナ感染者が出ない様努めていきます。終息後は中止していたイベントを再開していきます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170201412-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年10月13日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・事業所は、札幌を4区に跨る環状通から程近い閑静な住宅街にあり、交通、買い物など至便である。開設は2003年と早く、運営法人は同区苗穂においても、3ユニット27名利用のグループホームを展開している。
・職員の姿勢は丁寧で優しく、利用者・家族の意向の聞き取りに努めており、家族からも好評を得ている。介護計画への取り組みは、管理者、ケアマネージャーを中心に、介護記録、アセスメントシート等の様式を職員がケアプランを意識出来るよう工夫しており、モニタリング成果をカンファレンスで確認、協議して、現状に即した計画となるよう努めている。
・現在は相互に自粛傾向であるが、通例では地域密着型サービスの意義を踏まえ、地域とのつながりを重視し、行事への積極的参加や福祉に関する相談に応じる等で、連携を深めている。
・コロナ禍で全てが制限されるなか、ホーム行事等を企画し、楽しみある生活となるよう注力している。また、外出についても外気浴等、出来る事から少しずつ取り組み、コロナを理由に閉じこもる事のないよう、職員間で検討を重ねている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の入れ替わりが多く、慢性的な人材不足も続き、理念を全職員が共有し実践できていないと言えない。	法人内の事業所共通で、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、日常的に共有している。また、定期的に理念を振り返る機会を設け、質の高いサービスが実践出来るよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、日常的な交流と言える事が出来ていない。	現在は相互に自粛傾向にあるが、通例では、地域行事への積極的参加や、災害時の相互の協力体制等、関係の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議(書面会議)にて、認知症の人の理解や支援方法など、取り組みを地域の方に発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍につき、書面会議を実施しており、その場で話し合いや意見交換は出来ていないが、アンケートや意見を書面でいただき、いただいた内容はサービス向上に活かしている。	現在は書面開催となっているが、通例では管理者を中心に家族、地域代表、行政で構成され、定例で開催している。運営状況や利用者の動向、現状の問題点まで論議され、参会者から意見を聞き取り、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて連絡を取り、協力関係を築く事が出来るよう関係継続に努めている。	市、地域包括支援センターから情報提供や指導を受けている。定例の運営状況報告や、地域高齢者や事業所の状況について、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍と防犯上玄関の鎖錠をしている。身体拘束委員会を実施し、禁止の対象となる行為を理解できるよう実践している。	委員会を設置し、指針・禁止行為項目を基に2か月に1回開催している。委員会では、現状の検証を行い、全職員で協議事項を共有している。不適切なケアと思われる事は、その場で注意し合えるよう、拘束も抑制もない介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待委員会にて、職員間で虐待に関する周知を行い、虐待や不適切なケアが見過ごされないよう防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がなく、必要に応じその都度支援できるよう、関係者と話し合い活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、管理者より十分な説明を行い、疑問点不安などは解消できるよう理解・同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	書面ではあるが運営推進会議等を活用し、ご家族からの意見等は外部へも公表し運営に反映できるよう努めている。	毎月、ホームだよりを送付し、写真を交えて生活状況、体調面等を伝えている。また、コロナ禍の工夫として、インターネットの活用等、多様な面会方法の設定や、電話・手紙で意見の聴取に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年は特に暑い日が続いた為、環境整備に向け職員の意見・提案に関して反映出来る様検討している。	会議等の場で運営に関わる課題を協議し、組織的に充実した業務運営に努めている。職員意見を精査し、グループ事業所間でも共有し、運営に活かす仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	慢性的な人材不足により過度な残業も多く、職員のやりがいや向上心が失われており、整備が出来ていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会はなく、働きながらトレーニングする体力・余力が無い程、日々の業務・残業に疲弊している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、外部の人々との交流は、全く機会が無くなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談を繰り返し行い、信頼関係を築きながら、ご本人が不安に思う事や、今後の生活に対する要望などをしっかりと把握し、安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークの段階から、ご家族の困りごと、不安な事などを気軽に話して頂ける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が優先的に必要としている事、求めている事を明確にし支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護するばかりではなく、本人の残存機能を把握し、簡単な家事や手伝いをして頂くなど、共に暮らす者同士助け合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により面会できない期間が続いているが、頻繁にご本人の様子をお伝えしたり、連絡を密に取り合い、ご家族にも協力して頂ける事はお願いするなど、共に本人を支えていく事が出来る関係づくりをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により面会、外出もできていない為、馴染みの人や場所の関係の継続ができていない。	通例では、希望する馴染みの場所への外出は職員同行、または家族の協力を得ながら、支援している。現状では電話やお便りの頻度を上げ、関係が断たれないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が間に入り、楽しく交流をして頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話連絡を継続的にして相談を聞き、必要に応じて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から希望をくみ取り、ご家族からの意向も聞き、本人本位になるようマネジメントしている。	本人からどのように過ごしたいのか、具体的な希望・意向を聞き取る等、家族にも協力を得ながら、情報収集に努め、日々のケア、介護計画作成に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や暮らし方などは、ご家族や関係機関と連携し、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズム、心身状態、残存能力の現状の把握に努め、その人らしい暮らしができるよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、主治医と職員間で、本人に必要な支援、課題を話し合い、今の状態に必要な支援を介護計画に活かしている。	利用者本位を基本に、家族、医療機関、職員の意見を反映し、計画作成担当者が原案を作り、職員間でモニタリング結果と合わせて検討して、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実施状況を個別に記録し、職員で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族と十分に話し合い、必要なニーズに対応し、柔軟な支援ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防につき、地域資源を把握しているものの、活用できているとは言えない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を聞き、医療関係者との連携を密にし、適切な医療が受けられるよう支援している。	本人、家族の希望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切にするよう努めている。通院は家族同行が原則だが、状況に応じて柔軟な受診支援を行っている。定例で訪問診療との協力体制がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の些細な変化や気づきを看護師に伝え、適切な医療、看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、必要な情報提供を行い、早期退院の支援を行っている。また、日頃より病院関係者との関係づくりを行い、スムーズに情報支援が出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居段階で重度化、終末期の取り組み等の説明を行っている。身体状況の変化とともに、その都度話し合いを行い、十分に理解が得られるよう支援している。	契約時に事業所の方針を説明し、状態変化に応じて協力医療機関、家族と終末期を支えるための話し合いを行っている。職員は看取りケアについて定期的に学び、本人と家族の希望に寄り添うよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファで利用者の急変事故時の対応を定期的に確認し実践につなげられるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は火災を想定したもののみで、全職員が避難方法を身に付けているとは言えない。	定例で火災を想定した避難訓練を実施している。地域とは町内想定災害対策として、相互の役割確認を行っている。備蓄品の確認を行い、不意の災害に備えている。	自然災害を想定した訓練、また、ブラックアウト時の教訓を活かし、電力に頼らない暖房器具の準備に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような対応、言葉かけが出来るよう、職員同士で注意を合っている。	職員はプライバシーへの配慮、接遇や言葉使い、望ましいケアについて定期的に見直し、協議している。不適切と思われる対応については、都度、相互に注意する事で改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすい働きかけを行い、本人の希望を表し、意思決定が出来るような支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その人らしい生活が出来るよう、希望を伺いながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを保てるような、声かけやお手伝いを行い、おしゃれが出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事では盛り付け、彩り等工夫し、誕生会では、食べたいものを伺い、リクエストに応じられるよう支援している。準備や片付けはコロナの影響でして頂いていない。	現在はコロナ感染防止対策として、食事準備は職員のみで行っている。通例では、職員と同期同食・共作を原則として、楽しみある食事の場としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	今年の夏はとても暑く、食欲も落ちてしまいそうだったので、麺類にしりと食べやすいアレンジをしていた。また、水分量も十分確保出来るよう飲水時間を増やした。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後されている方もいるが、全員ではない。朝晩は必ずして頂き、不十分な際は仕上げをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、声かけや時間誘導を行い、排泄の失敗が減らせるよう支援している。	トイレでの排泄を基本とし、時間での誘導と個々の排泄サインを見逃さないよう、チェック表を用いながら把握し、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や体操等で、便秘を予防している。身体レベルの良い方は一緒に自室の掃除等をして頂き、体を動かす機会を作っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お湯の温度や入りたいタイミングに、出来るだけ添えるように支援しているが、時間帯は日中になっている。夜は入れれていない。	毎日お湯はりをし、個々の希望に合った入浴支援に努めている。無理強いすることなく、時間や担当者に変化をつけ、楽しい入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度、湿度、環境に気を配り、安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用、用法、用量について理解している。服薬支援は、飲みこぼし、誤薬が無いよう職員2人で確認している。症状の変化なども記録に残し、看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ前は編み物や縫い物をしたり、近所の散歩をしていたが、現在は出来ていない。他の階への行き来も控えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為外出支援は出来ていない。必要な通院時のみ外出している。	通例では、個別に声がけし、日課として出歩くように努め、近隣へ買い物に出かけている。また、家族の協力を得ながら、外出の機会作りに取り組んでいる。コロナ禍で外出が制限されるなか、職員間でホーム行事等を企画し、実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとり金銭を所持していないが、必要に応じて買い物ができる様、事務所でお小遣い金を管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナの為面会が出来ない変わり、テレビ電話等で、ご家族とやり取り出来る様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外の明るさ等を考慮し、電気の調整をしたり、クリスマス、お正月等は季節の飾りつけをしている。誕生会のあとは写真を飾っている。	各ユニットの共有スペースは、採光や温湿度に配慮された開放的な空間となっている。居間では利用者が好きな場所で寛いだり、季節が感じられる装飾があり、家庭的でゆっくりと過ごせる工夫が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性などを考慮し、配席を変更している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた物を活かし、尚、転倒事故を防止できるよう、家具の配置を工夫している。	安心して自宅さながらの生活が続けられるよう、居室には家族の協力を得て、昔馴染みの家具や思い出ある物、写真、手紙が掲示されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、食堂、風呂等わかり易く表示し、出来る限り自立した生活が送れるよう工夫している。		